



◆其の九十

石に刻まれた
ひとびとの思い

石造物は、全国に数多くつくられ、市内にも牛島の地藏石仏などいくつか存在します。

石造物がつくられた背景には、仏教の考えが強く影響していました。中世は一言でいうと混乱の時代であり、先の見えない不安に満ちたものでした。そのため人々は、現世ではなく来世に希望を抱き石造物を造ったようです。

石造物の中には、年代が分かるものもいくつか存在します。5月号でとりあげた南北朝のころのものに刻まれた年号には、北朝のもの（康永、貞和）と南朝のもの（正平）の両方がみられます。当時は、北朝・南朝両方に天皇がおり、元号が同時に二つ存在する混乱の時代だったのですが、「ちくしの」の人たちも北朝・南朝に分かれて争っていたのでしよう。

九州の重要拠点大宰府と一体の立地にあった「ちくしの」も争乱の

渦中にあっただと考えられます。戦いの犠牲者は、武士たちだけのはずもなく、「ちくしの」に住まう多くの人たちも、心休まる時はほとんどなかったことでしょう。

この時代に建てられた石造物には、争いのない平和な世の中を願う「ちくしの」人の思いが込められているのです。

21世紀の現在も世界のどこかで争いが起きています。平和で安心できる世の中を求める気持ちは、今も昔も変わらないのだと気付かされます。



現在も残る牛島の地藏石仏

問文化財課

